



[本校] 〒950-2292 新潟市西区みずき野3-1
tel. 025-239-3111 fax. 025-239-3690
[新潟中央キャンパス] 〒951-8068 新潟市中央区上大川前通7-1169
tel. 025-227-7111 fax. 025-227-7117
https://www.nuis.ac.jp somu@nuis.ac.jp

新春の ごあいさつ

来る3月末、ドコモはFOMAを停波しiモードを終了する。このニュースでFOMAがFreedom Of Mobile multimedia Accessの略だと知って驚いたが、その驚きはSMAP解散の



新潟国際情報大学
学長 越智 敏夫

とき、その名称がSports Music Assemble Peopleの略だと知ったときの驚きに近い。

ところで来年はメリー喜多川生誕100年だそうで、戦後日本の芸能界の異常さにも思いを馳せるが、そういうときに必ず思い出すのは2015年末の紅白歌合戦である。愛媛の妻の実家で見えていたら、白組司会井ノ原快彦で、他にもジャニタレ

ニーズ事務所のみならずNHKまでもが(木村拓哉以外の)SMAPメンバーを見捨てたことに気づいただろう。

その紅白の翌日、2016年の年明け以降の激動は『週刊新潮』による事務所内紛の記事から始まり、ジャニー喜多川とメンバーの面会、メンバーによるTV番組中の「謝罪会見」と続くが、その悲惨な「さらしもの」感が強かった。結局、その後の飯島の退社、木村以外の4人のメンバーの離脱、SMAP解散へと至る。

忘却の時間的効果 人間、ものを忘れるから 楽しく生きていける

がえらく多い。数えてみると近藤真彦、SMAP、TOKIO、V6、嵐、関ジャニ∞、Sexy Zoneと7組も参加している。

さらに驚いたのは、その年のトリがSMAPではなく近藤だったことだ。このトリの人選を知って地球上でもっとも恐怖したのはSMAPのマネージャーだった飯島三智のはずで、ジャ

これが10年前のことである。近いと感じるか遠いと感じるか。FOMA停波と聞くと、かつて自分が毎週ちよこつと話していた新潟県民エフエム放送(FMポート)の停波、閉局という2020年の出来事も思い出す。人間、ものを忘れるから楽しく生きていける。

ということで、今年もよろしくお願ひします。これでも一応は歴史の文章なので文中敬称略です。ご容赦ください。

CONTENTS

2面

ふるさと納税
返礼品開発プロジェクト
フィットネス研究部
個人・団体功労でW受賞

3面

アグリテック・ラボ
地域活動・学生発表交流会
学生課外活動

2・3面

教員の活動

4面

新潟県信用組合と連携協定結ぶ
国際交流ファシリテーター事業20周年
国際理解セミナー
アジアから世界を知る
—小さな酒蔵の海外展開



NUISホームページ
https://www.nuis.ac.jp
(スマートフォン対応)



Facebookページ
https://www.facebook.com/nuis.face



Instagram



X(旧 Twitter)
@nuis_nabbit



YouTube
公式
チャンネル

ふるさと納税返礼品開発プロジェクト

産官学連携事業の一環として、本学学生が取り組む「新潟市ふるさと納税返礼品魅力向上プロジェクト Native」のメンバーが10月24日、新潟市の中原八一市長を訪

産官学連携で3品目

新潟市長に成果を報告

生と企業が連携して3つの返礼品を開発しました。開発した返礼品は①新潟空港での体験型返礼品②とうもろこしの甘酒③ユニークな味の冷凍おにぎりーの3品です。

「プロジェクトに参加した経営学科3年

谷川ひかりさんの話」

私は商品開発チームで「コーン甘酒を開発しました。昔から酒文化が深く根付いている新潟の魅力が伝えられる甘酒で、新しい新潟名物をつくりたい」と



コーンあまざけ

あふれて素晴らしい。今後ともインパクトのある商品の企画を楽しみにしています」とコメントをいただきました。学生たちが考案した返礼品は、新潟市のふるさと納税ポータルサイトに掲載される予定

「地域資源を活かした現実性」のバランスを見つけることに苦戦しました。ラベルデザインは親しみやすくするために、「ひらがな」を採用し、柔らかさと温かさを意識しました。市長から「新潟の魅力を広げる面白い取り組み」と評価していただき、地域を学び、形



中原市長との歓談の様子

フィットネス研究部

11月9日に開催された新潟県パワースポーツ協会創立50周年記念式で、本学フィットネス研究部が団体功労賞、部長の



個人功労賞を受賞する藤瀬武彦教授(右)

藤瀬教授は1994年の開学以来、部長兼監督として選手育成に尽力。1997年に県大会初出場、1998年に協会理事就任後も審判を務めるなど長年貢献してきました。部活動も近年

県パワースポーツ協会が授与

賞はこうした功績が

個人・団体功労でW受賞

成と大会運営に尽力。1997年に県大会初出場、1998年に協会理事就任後も審判を務めるなど長年貢献してきました。部活動も近年

高く評価されたものです。今後も競技力向上と国際大会への挑戦を視野に、さらなる飛躍に期待します。藤瀬教授は「学生の努力が評価されてうれしい。今



受賞を喜ぶ部員・OBたちと藤瀬教授(後列左から2人目)

後も競技を通じて人材育成に努めたい」と語りました。

構想と変容——1957-1959年の設計案に基づく空間的分析」第75回日本ロシア文学会研究発表会(東京大学)

中村 貴(国際文化学科・准教授)

・(2025年9月27日)「現代上海に生きる日本人たち(1978〜)——彼らの過去・現在、そして未来——」Think Asia Seminar(華人研)(大阪市立生涯学習センター)

藤田 美幸(経営学科・教授)

・(2025年9月13日)パネリスト「生態系ネットワーク形成を基軸とした地域づくりを目指して」応用生態学会第28回新潟大会 公開シンポジウム(新潟市・朱鷺メッセ)
・(2025年9月14日)ファシリテーター「福島県とえちごエコネットの未来を語る」応用生態学会第28回新潟大会: トークセッション(ビュー福島県)
・(2025年10月26日)「湿地都市の潜在的ブランド価値——『無意識の資産』としての湿地と地域住民の意識ギャップ——」日本国際観光学会 第29回 全国大会(追手門学院大学)
・(2025年11月5日)招聘講演「『えちごエコネット』における経済的・社会的意義——湿地の価値と市民の意識ギャップの解明——」日独連携シンポジウム「官・民・学で拓く自然共生社会」(新潟大学)

3) 委員・社会的活動・記事・その他

小林 伊織(国際文化学科・准教授)

・(2025年10月22日)国立教育放送局(National Education Radio)の番組「教育行動家」にゲスト出演し、台湾と日本の教育交流について語りました。

佐々木 桐子(経営学科・准教授)

・(2025年10月14日)『物流ニッポン』(物流ニッポン新聞社)寄稿「災害に立ち向かい、物流と

共に歩む新潟 水運・鉄道・陸運の歴史」30面

鈴木 佑也(国際文化学科・准教授)

・(2025年11月8日)建築/建設と権力/イデオロギー: I. スターリンとN. フルシチョフの時代を例に(上智大学)
・(2025年11月25日)情報統制の時代における文化のレジリエンス——現代ロシア社会とディアスポラ、『サバキスタン』にみる創造の戦略(万代シルバーホテル)

藤瀬 武彦(経営学科・教授)

・(2025年10月19日)第35回新潟県ベンチプレス選手権大会 審判及び陪審員(新潟国際情報大学 体育館)
・(2025年10月25日・26日)第56回北信越学生陸上競技選手権大会 副会長(長野市営陸上競技場)
・(2025年11月2日)第17回秋季新潟県パワースポーツ選手権大会 審判及び陪審員(五泉市 栗島ふれあい館体育館)
・(2025年11月9日)新潟県パワースポーツ協会創立50周年記念誌の編集(発行)(新潟県パワースポーツ協会)
・(2025年11月9日)新潟県パワースポーツ協会創立50周年記念式典で功労賞受賞(新潟市中央区・新潟第一ホテル)

山田 裕史(国際文化学科・教授)

・(2025年11月25日)『読売新聞』朝刊「国際的な特殊詐欺、カンボジア有数の複合企業が巨額収益か……『国家ぐるみ』との批判も」にコメント掲載

学生と社会人が農業の未来を考える次世代向けセミナー「AgriTech Lab」(東北経済連合会主催)が10月25日、本学中央キャンパスで開催されました。県内外の大学や企業関係者を含む約130人が参加し、本学からは経営学科の内田ゼミ、国際文化学科のリューデゼミ、澤口ゼミの学生10名が出席しました。セミナーでは、農業にテ

農業×テクノロジー

可能性探り 未来語る

クノロジを掛け合わせた地域活性化の事例を学び、指導者らと交流しました。特にウオーターセル社創業者・長井啓友氏による農業支援アプリ「アグリノート」は、指導者不足を補う革新的ツールとして注目されました。グループ討議では海外輸出やドローン活用などを議論し、若者の活躍を求める時代の変化を実感。内田ゼミの坂井彩花氏が「ベスト提言賞」、内田ゼミの小峯



彩とリューデゼミの菅原結希班が「ベスト提言賞」を受賞し、農業の可能性を再認識する貴重な機会となりました。(経営学科2年 田辺 奈々)

地域活動・学生発表交流会 佐藤広明さんが発表

2025年度古泉財団研究費助成金の対象者に国際文化学科4年の佐藤広明さんが選ばれ、研究テーマ「新潟の無形文化財としての

酒づくりと食文化

「おいしい関係づくり」に挑戦

なぐ観光のあり方を探り、地域の魅力を再発見しながら旅行者と地域を結ぶ「おいしい関係づくり」に挑戦する内容を紹介しました。発表後、佐藤さんは「さ



発表の様子(左側が佐藤さん)

間にわたり酒蔵見学や食体験を通じて外国人旅行者の視点を調査し、リアルとデジタルを融合させた新しい旅のスタイルを提案する研究を進めました。佐藤さんは12月6日、新潟日報メディアシップで開催された「地域活動・学生発表交流会」で、これまでの成果を発表。新潟の誇る日本酒と食文化を世界へつ



「第27回国際ユースサッカーIN新潟」U-17新潟選抜対U-17オーストラリア代表の副審を務める筆者(右端)

サッカー審判員／夢は大きくW杯の舞台

学生課外活動

古賀 奨大(国際文化学科3年)

私は、サッカー・フットサルの2級審判員として北信越地域を拠点に活動しています。選手以外の方法でも大好きなサッカーに関わりたくて、10歳ころから活動を始めました。高校で選手を引退し、大学入学後は審判員一本で続けています。2年次に2級に昇級し、中学生年代の全国大会に派遣された今年1月の大会では、大会期間中に評価をいただき、決勝戦の主審に選出させていただきました。現在の目標は国際審判員となり、選手として立てなかった大きな舞台や、子どものころ夢見ていたW杯の舞台に審判員として立つことです。批判的となることが多い審判員ですが、ファンと同じく「フットボールを愛している」ことに違いはありません。委ねられた責任は非常に大きく、時には勝敗をも左右します。ともに愛するからこそ批判も受け止め、よりフェアで美しいフットボールを追求して活動が続いています。

教員の活動(本人申告による)

1) 研究論文・図書

臼井 陽一郎(国際文化学科・教授)

・(2025年10月)「ヨーロッパ再軍備計画はEUを変えるのか? : 分断化の克服へ向けて」『国際問題』国際問題研究所 第727巻 (25~35頁)

佐々木 桐子(経営学科・准教授)

・(2025年11月)「離散系シミュレーションを用いた道路ネットワークモデルの構築」『日本シミュレーション学会論文誌』日本シミュレーション学会 第17巻 第2号 (1~9頁)
・(2025年11月)「道路交通問題への離散系シミュレーションの適用」『日本経営システム学会誌』日本経営システム学会 第42巻 第2号 (97~105頁)

瀬戸 裕之(国際文化学科・准教授)

・(2025年11月)「法治国家実現を目指す一憲法の制定・改正にみえる課題」(152~156頁)「中央レベルの国家機構改革一解体された内務省」(157~161頁)「変わりゆく地方行政一地区(タセーン)の再設置と県知事制の転換」(172~176頁)「汚職は撲滅できるのか一党と政府による汚職取締の強化」(209~213頁) 菊池陽子・鈴木玲子編著『ラオスを知るための60章』第2版』明石書店

中村 貴(国際文化学科・准教授)

・(2025年10月)「現代上海在住日本人における『上海ロックダウン』の語り——非日常の日常化と彼らの位置性を中心として」『日本オーラル・ヒストリー研究』明石書店 第21巻 (113~131頁)

山田 裕史(国際文化学科・教授)

・(2025年9月)「カンボジアの地方分権化改革——民主的制度を通じた権威主義の強化——」『都市

とガバナンス』第44号 (84~92頁)

2) 学会・研究会・講演等

臼井 陽一郎(国際文化学科・教授)

・(2025年8月24日~26日)「欧州グリーンディールの対外的側面——EU世界戦略の視点から」国際法学会(岡山コンベンションセンター)
・(2025年11月5日)シンポジウムへの登壇「液化化するNATO—トランプ2.0政権下の大西洋同盟」国際問題ウェビナー(国際問題研究所)
・(2025年11月8日・9日)「Is the Green Deal Still Alive? — The Second von der Leyen Commission amid」日本EU学会(静岡大学)

區 建英(国際文化学科・教授)

・(2025年11月9日)「丸山真男思想史學中的朱子學」朱子學國際學術研討會(台灣大學 文德書院)

小林 満男 他(情報システム学科・教授)

・(2025年10月25日・26日)「Adler (2019) The 99 Percent Economyから考える日本の批判的マネジメント研究とこれからの日本の経済社会」経営情報学会2025年全国研究発表大会(北海学園大学)

謝 凱雯(経営学科・教授)

・(2025年12月1日)「企業家の道しるべ」台湾ミツミ電機株式会社(高雄大寮工場)

鈴木 佑也(国際文化学科・准教授)

・(2025年10月25日・26日)「フルシチョフ期におけるソヴィエト宮殿競技設計に見る記念碑性の

新潟県信用組合と連携協定結ぶ

本学と新潟県信用組合は令和7年10月24日、共同研究や人材交流を通じ、大学と金融をつなぐことで環境・社会課題の解決を導き、地域貢献・



社会貢献を図ることを目的に包括連携協定を締結しました。今後、学術と金融の振興、共同研究や人材育成、SDGsの推進などに取

り組んでいきます。

第1弾として包括連携協定を結んだ翌25日、同信用組合が「にいがた緑の百年物語」活動の一環として実施している「けんしんの森」植樹活動に、本学教員と学生が植樹ボランティアとして参加しました。植樹場所は新潟市中央区

同信用組合の赤川新一理事長、本学の桑原悟教授らのあいさつの後、新潟県林業開発のスタッフの指導のもとで、信用組合の参加者とともに100本の松の苗木を植えました。参加した本学教員と学生も松の苗をポットから出し、肥料と混ぜた土とともに植える貴重な体験をしました。

第2弾として、11月12日に経営



植樹活動の様子

大学と金融つないで地域貢献

第1弾に植樹活動

情報学部1年生を対象にした「第1回金融リテラシー講座」を開催しました。「マネーロンダリングと特殊詐欺」、「これから皆さんの投資について知って

おいてほしいこと」をテーマに学びました。講座を通じて、マイナスイメージに捉えられがちな投資の正しい知識を習得し、犯罪の被害者にも加害者にもならないための基礎知識を身に付けることを学びました。

(社会連携室)

国際交流ファシリテーター事業20周年

世代や経験を超えた意見交換が行われました。

本学の国際交流ファシリテーター事業20周年を記念したイベントが10月25日、本学国際交流センターで開催されました。イベントは昼夜2部構成で、国際文化学科の佐々木寛教授はじめ現役教員・スタッフ、歴

記念イベントでワークショップ開催

世代を超えて未来を語り合う

代、学生、卒業生など約70名が参加。これまでの担当教員である長坂格、池田嘉郎、小林元裕の各先生も駆けつけ、事業の歴史や思い出を語っていただきました。昼の部では2つの企画を実施しました。

参加者は当時を懐かしみながら楽しみました。2つ目は卒業生が起業した団体による全体ワークショップで、多様な立場の参加者がファシリテーターの未来を考える場となり、

と行動に支えられ、ここまで歩んできました。参加できなかった神長英輔先生、安藤潤先生にも心より感謝申し上げます。25周年、30周年に向けてさらなる発展を目指します。



ワークショップに先立ち、佐々木教授からの挨拶

世代や経験を超えた意見交換が行われました。(国際交流ファシリテーター推進員 宮本 裕美 平成19年度本学卒業生)

アジアから世界を知る —小さな酒蔵の海外展開

国際理解セミナー

う感想が寄せられ、異文化理解について考える有意義な時間となりました。(国際交流委員会)

今回は、高野酒造(本社・新潟市西区木山)総務部長の渡邊淳氏を講師に迎え、「小さな酒蔵の海外展開」香港への輸出 第2歩目」をテーマにご講演をいただきました。参加者からは、「地元の酒蔵が30年以上前から海外へ挑戦し続けてきた歴史や、香港市場との関係の築き方



高野酒造 総務部長 渡邊 淳氏

11月23日、本校みずき野キャンパスで「国際理解セミナー」を開催しました。本セミナーは、公益財団法人新潟県国際交流協会が主催し、県内の大学や文化施設がリレー形式で講座を開講する事業です。本学で毎年実施している「国際理解講演会」に代わり、より多くの方に本学を知っていただく機会として取り組みました。